

## <病理組織標本作製 胃生検組織診断分類(Group分類)について>

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、弊社病理組織標本作製(診断)における胃生検組織診断分類(Group分類)取扱いの変更を行ないますので、下記の通りご案内いたします。ご了解の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

改訂 胃生検組織診断分類(Group分類)の適用 : 2010年 5月 24日(月) より  
(先行実施もございましたが、このたび全例に適用する体制となりました)

検査項目	保険区分	保険点数	所要日数	備考
病理組織標本作製(診断) 1臓器	N000	880点	4~7	胃生検組織診断分類の改訂

旧Group分類と新Group分類の対比 [ 胃癌取扱い規約 第14版(2010年3月) 日本胃癌学会・編 ]抜粋

旧 Group 分類 (第 13 版, 1999)	新 Group 分類 (第 14 版, 2010)
	X : 生検組織診断ができない不適材料
I : 正常組織, および異型を示さない 良性 (非腫瘍性) 病変	1 : 正常組織および非腫瘍性病変
II : 異型を示すが, 良性 (非腫瘍性) と判定される病変	2 : 腫瘍性 (腺腫または癌) か非腫瘍性か判断 の困難な病変
III : 良性 (非腫瘍性) と悪性の境界領 域の病変	3 : 腺腫
IV : 癌が強く疑われる病変	4 : 腫瘍と判定される病変のうち, 癌が疑われ る病変
V : 癌	5 : 癌

\*胃Group分類は、内視鏡的生検材料を対象とし、ポリペクミー材料、内視鏡的粘膜切除材料、内視鏡的粘膜下層剥離材料や外科切除材料は除外となりますので、**各採取材料種の記載を必ずお願いします。**またGroup分類では、診断名を記載し、それに各Group分類を併記することを原則としておりますが、採取検体の状態により診断名の記載に至らない場合もございますので、ご了解の程お願い申し上げます。

\*胃生検組織診断分類に関しましては、裏面及び「胃癌取扱い規約 第14版(2010年3月)日本胃癌学会・編」により詳細をご参照下さい。

(2010-2011総合検査案内 147ページ参照)

以上

**KML** 株式会社 京浜予防医学研究所

☎ 044-777-3254(代)

# 胃生検組織診断分類(Group分類)

[ 胃癌取扱い規約 第14版(2010年3月) 日本胃癌学会・編 ]抜粋

## 1. 原則

胃の内視鏡的生検材料を対象とし、ポリペクトミー材料、内視鏡的粘膜切除材料、内視鏡的粘膜下層剝離材料や外科切除材料は除外する。

Group 分類は上皮性のもののみ用い、非上皮性のものには用いない。

この Group 分類は病変の診断（疾患）区分を明確にすることを目的とするものであるため、生検診断の際には診断名を記載し、それに各 Group 分類を併記することを原則とする。

## 2. 分類

**Group X**：生検組織診断ができない不適材料

**Group 1**：正常組織および非腫瘍性病変

**Group 2**：腫瘍性（腺腫または癌）か非腫瘍性か判断の困難な病変

この判断をする場合は indefinite for neoplasia と記載し、臨床医に対しては以下のような、判断が困難な理由を付記することが望ましい。

- (1) 異型細胞は存在するが、組織量が少なく細胞異型からでは腫瘍性病変としての判断が困難な病変。
- (2) 異型細胞が存在するが、びらんや炎症性変化が強く腫瘍か非腫瘍かの判断が困難な病変。
- (3) 異型細胞が存在するが、病理組織の控滅や傷害が強く腫瘍か非腫瘍かの判断が困難な病変。

**Group 3**：腺腫

**Group 4**：腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変

**Group 5**：癌

癌の組織型を付記する。2種類以上の組織型が存在する場合、その組織型を優勢像から列記することが望まれる。